

世界につながる教室～授業で使える映像教材～

「水と世界」を伝える映像

「国際協力」を伝える映像

授業活用のための参考資料



はじめに

これからの時代を生きる子どもたちには、どのような未来が待っているのでしょうか。AI(人工知能)をはじめとする技術革新やグローバル化の進展により、急速な社会の変化はますます予測が難しくなっています。このような時代にあって、2020年度より施行されていく学習指導要領では「持続可能な社会の創り手」の育成が重視されています。今の子どもたちの世代、更にはその次の世代へとつなげる持続可能な社会を築いていくために、子どもたちに何を伝えていけばよいのか。子どもたちと共に何を考えていけばよいのか。そのヒントになりうる映像教材を、「水と世界」「国際協力」をテーマに作成しました。子どもたちが、大きく変化する社会の中で多様な人々と協働しながら人生を切り拓いていく一助となれば幸いです。

映像教材制作チーム

目次(各映像の概要と参考 URL)

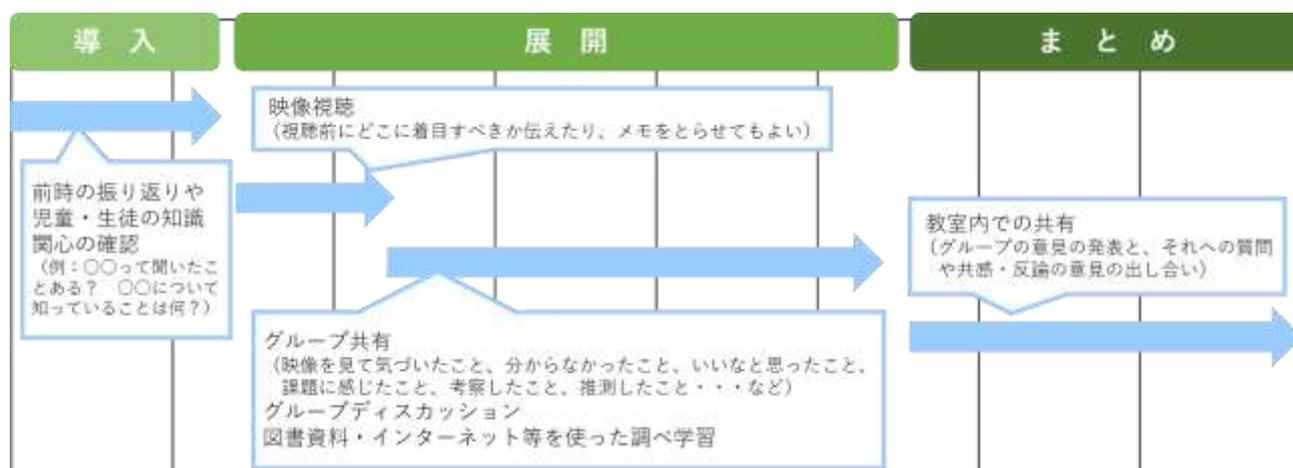
【水と世界を知る映像】

1. 世界をめぐる水(水の循環)(全 2 分 00 秒)…………… 2
2. ルワンダってどんな国?(全 2 分 36 秒)…………… 3
3. ルワンダ都心部の子ども的一天(全 4 分 59 秒)…………… 4
4. ルワンダ村落部の子ども的一天(全 4 分 59 秒)…………… 7
5. 海をわたるプラスチックごみ(全 1 分 45 秒)…………… 10

【国際協力を知る映像】

6. もし水がなかったら……(全 1 分 39 秒)…………… 11
7. 国際協力活動に取り組む人のインタビュー
 - ① 黛専門家の場合
ルワンダ水衛生公社(WASAC)バヒゲさんの場合(全 4 分 59 秒)…… 12
 - ② JICA 海外協力隊 富田さんの場合(全 3 分 50 秒)…………… 14

映像教材を活用した授業の流れ(イメージ)



1. 世界をめぐる水(水の循環)(全 2 分 00 秒)

0:00		・水が地球を循環する様子
0:41		・我々人間の水の利用(農業用水、工業用水、生活用水、下水処理等)
1:31		・地球上全ての動植物が必要とし、世界をつなげる、世界全体で共有する大切な水

【説明】

「水」を切り口に、世界のつながりを理解できます。

水は、人間だけでなく、地球上全ての動物や植物が生きていくために必要不可欠です。水の循環に国境はないので、私たちが使って汚れた水をそのまま戻すと、あらゆる生き物に悪影響を及ぼします。水は世界全体で共有する大切な資源なのです。

【参考 URL】

・「わたしたちの水道」東京都水道局作成 小学校社会科学習資料 2019 年度版

<https://www.waterworks.metro.tokyo.jp/kids/study/images/study.pdf>

水の循環の詳細や、日本での一日あたりの水使用量などがわかります。

・池上彰と考える！ビジネスパーソンの「国際貢献」入門 『水の問題』

<https://www.jica.go.jp/aboutoda/ikegami/01/index.html>

・ぼくらの地球調査隊「世界の水問題」(漫画で学ぶ、地球規模の課題)

https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/materials/jhqv8b000006cu8c-att/pamphlet_kabe05a.pdf

「水」以外の地球規模の課題についての冊子は以下にあります。

<https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/materials/kabe.html>

2. ルワンダってどんな国？(全 2 分 36 秒)

0:00		・水に課題を持つ国に、日本は国際協力に取り組む そのような国の一つ、ルワンダ
0:32		・ルワンダはどんな国なのか
1:09		・地図・面積・人口・気候 ・言語・教育
1:31 2:01		・1994 年の虐殺という悲しい歴史から復興を目指す ・首都キガリの現在の様子(高層ビル、増える交通量、 綺麗な街並み等)

【説明】

あらゆる人々に大切な「水」について、日本が協力している国の一つ、ルワンダを紹介します。「アフリカ」や「途上国」というと「貧しくてかわいそう」「動物が沢山いて自然が豊か」というイメージをもたれることもありますが、この映像では「成長していく途上国の一面」をお伝えしたく、発展していく都心部や綺麗な街並みをうつしています。

【ルワンダを知る参考 URL】

- ・外務省「ルワンダ」
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/rwanda/index.html>
- ・世界情報通信事情(総務省)「ルワンダ」(ネット、携帯電話市場等)
<https://www.soumu.go.jp/g-ict/country/rwanda/detail.html>
- ・総務省「ルワンダ」
https://www.soumu.go.jp/main_content/000621022.pdf
- ・JICA ルワンダ事務所
<https://www.jica.go.jp/rwanda/>
- ・鮫島弘子のアフリカビジネス入門 2017
ルワンダ ICT 編 https://www.jica.go.jp/africahiroba/2017_TICAD/vol3_1/
ルワンダ農業編 https://www.jica.go.jp/africahiroba/2017_TICAD/vol4_1/

【世界の国々を知る参考URL】

- ・UNFPA 世界人口白書 2019
<https://tokyo.unfpa.org/ja/publications/%E4%B8%96%E7%95%8C%E4%BA%BA%E5%8F%A3%E7%99%BD%E6%9B%B82019%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%E6%8A%9C%E7%B2%8B%E7%89%88>
- ・UNICEF 世界子供白書 2019
<https://www.unicef.or.jp/news/2019/0143.html>
- ・「世界の国を知る・世界の国から学ぶ「わたしたちの地球と未来」」愛知県国際交流協会(2010年3月)
<http://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/kyouzai/index2.html>

ルワンダはじめ、世界 120 ヶ国それぞれの国をテーマにした国際理解教材です。

3. ルワンダ都心部の子ども的一天(全 4 分 59 秒)

0:00		・首都キガリのはずれで暮らすフィシー君の家には水道がない中、家族 5 人で 1 日 40L の水を使用
0:39		【フィシー君の一日】
1:45		・朝 5 時半に母親が、6 時に子ども達が起きてくる
2:10		・水は水売りから買い、生活費の 10%程を占める
		・子ども達は、皿洗いや朝食の準備(炭で調理)、携帯プリペイドカード屋の店番と、家族を手伝う
2:36		・徒歩 2, 3 分の通学路は舗装されている
2:52		・理科の授業教科書は個人に配布されておらず、学校で保管し、1 冊を 3~4 人で共有
3:09		・公用語を英語に定めたルワンダは英語教育にも熱心で小学校から、授業は英語で行われる
3:18		・学校にも水道はなく、雨水をためるタンクを活用
3:39		・下校後、家族全員で昼食、一つの大皿から皆で食べる
3:50		・一見「ゴミ」にも見える使い古されたフタを転がす遊びを子ども達は楽しみ、フィシー君はサッカー選手になりたいと夢を語る
4:26		・夜七時、店先や隣家に小さな外灯がとまり、夕食の時間
4:44		・母親は、水は家族の健康・衛生を守るためにも何より大切なものだと語る

【説明】

発展が進むルワンダの首都キガリは、人口が急増中です(年平均増加率 2.5%、UNFPA 世界人口白書 2019 より)。発展していくキガリのはずれに暮らす少年の朝から夜までを追いました。

日本と比べると貧しく見える部分もあるかもしれませんが、共通点や見習いたくなるような生活風景もあるのではないのでしょうか。

【フィシー君一家について】

■家族氏名・年齢 他(※名前の順番は姓名)

- ・父:シミマーナ・オクターブ 35 歳、バイクタクシーの運転手
- ・母:ニヤランサビマーナ・ジュスティン 33 歳、携帯電話のプリペイドカードを販売
- ・長男:ミヒゴ・フィシー 10 歳、小学生
- ・長女:ケザ・ブレンダ) 8 歳、小学生
- ・次男:ムギシャ・ボリス 3 歳

※フィシー君の部族では姓は親からの世襲ではなく、夫婦合わせなくてもよいとのこと



■住居

右の写真の中でフィシー君の家は左側(中央に見えるドアは隣の家の入り口)。

家の前に、母親の仕事である携帯のプリペイドカード販売所がある。



■家族の水情報

・ほぼ水売りから購入。

朝 6~7 時頃に売りに来る。電話で頼んで、持ってきてもらい買うこともある。

・毎日ジェリ缶を 2 つ(20L/個)購入(洗濯する時は 4 つ購入)。

料理、洗い物、洗顔や歯磨き、母親は朝シャワー、子供は夜シャワーなどに使う。

子どもが使い過ぎないように、子どもの分の容器を分けている。

・水売りの水・・・200Rwf(ルワンダフラン)/ジェリ缶(20L)

※2020 年 2 月現在 1Rwf は 0.117 日本円。

・家の近くには公共水栓としての貯水タンクがある。ここは地域コミュニティが管理しており、150Rwf/ジェリ缶(20L)。貯水タンクから水を出すには「鍵」が必要で、水が欲しい時は、お金と引き換えに鍵を管理する人から鍵を貰う。タンク内の掃除が行き届いておらず、水が汚いことがあり、近くにはあるがあまり買うことはない。

・近所の知り合いが大型タンクに雨水を貯めており、水が無料でもらえるが、ここも水が汚い時がある。また無料でもらうのには気をつかうので、時々しか利用していない。

・母親は、なるべく飲み水は煮沸するようにしている。ただし、ルワンダ家庭がどこもそうしているわけではない。撮影時は忙しくて水を沸かす余裕が無かったそうで、家族が水を飲まないで過ごしていた)。

・家計に占める水への支出の割合は 10%程度。これ以上は水購入のための支出は増やしたくない、と母親は考えている。

■フィシー君のある1日(※撮影時)

05:30 母親起床、家の前の掃除を始める。

06:00 フィシー君(及び家族)起床、歯磨き、顔を洗う。

母親が洗い物を始め、それを手伝った後、携帯プリペイドカードの店番。母親は家の中を掃除、妹も手伝う。父親はバイクタクシーの運転手として出勤。

07:00 母親、朝食準備、水売りが来て水を購入。

朝食はイギコマ(トウモロコシなど穀類の粉末を溶いたもの)。

08:00 着替えて学校へ向かう(歩いて 2~3 分の距離)

08:20 理科の授業。教科書は個人所有ではなく学校で管理し、共有して使う。

ルワンダでは教育言語は英語とされており、授業は英語で行われている。

11:30 父親、子ども帰宅し、一家で昼食。イモ、ほうれん草、トマト、チーズなどを煮てご飯にかけたもの。

午後 フィシー君は店番以外は、遊んでいる。廃材に見えるような丸いフタを紐で繫いだものを転がす遊び。母親は店番をしながら、夕食を用意。

19:00 夕食。イモと豆を煮たものに、アボカドを加えたもの)。

■写真



お父さんの仕事用バイク。使い古しており動かなくなると仕事に行けない。



地域の公共水栓。フィシー君の家から徒歩 30 秒のところにある。



学校の教室に電灯はなく、窓からの陽光が照明の代わり。



フィシー君の学校の中には虐殺で亡くなった方々への慰霊碑があった。



校内の奥の方にトイレがある。中に入ってみると、日本の総合住生活企業であるLIXIL(リクシル)が開発した簡易トイレ「SATO」があった。

「世界の開発途上地域では、屋外やくみ取り式トイレなどで排泄をするため、悪臭や伝染病の危険にさらされている人びとが大勢います。こうした状況を変えようと LIXILが開発したのが、開発途上国向け簡易式トイレ「SATO」。安くてシンプルなデザインで設置も簡単。少量の水で洗浄することができます。」

出典：<https://www.lixil.co.jp/minnanitoirewopj/sato.htm> (LIXIL サイト)

4. ルワンダ村落部の子ども的一天(全 4 分 59 秒)

0:00		・村落部のダニエリ君の家には水道がなく、地域に水売りもあまり来ない中、家族 5 人で 1 日 40L の水を使用 【ダニエリ君の一日】
0:36		
0:56		・朝食は母親がかまどにマキや枯草をくべて作る
1:28		・徒歩 40 分の学校までの道は未舗装
1:49		・ICT 教育に力を入れるルワンダでは、授業で一人 1 台使えるようパソコンが配られている
1:57		・学校にも水道はなく、雨水をためるタンクを活用
2:18		・家族全員で昼食、1 人一つ皿がある
2:27		・ダニエリ君は洗い物を手伝い、すすぎで使った水は豚の飲み水となる
2:44		・兄弟 3 人で坂道(野山)を 10 分下り、湧き水をくむ水を運んでの帰り道は 20 分
3:48		・サッカーを楽しむダニエリ君、水くみは好きという
4:11		・遊んだ後は学校で学んだことの復習(教科書は個人に渡されないので、ノートに書き写し、それを読み返す)
4:26		・この地域に街灯はない
4:48		・母親は、子どもが何度も水くみにいかずにすむようにしたいという(乾季はなるべく少ない水ですむよう工夫し、雨季は雨がふったらそれをすぐにためるようにする)

【説明】

ルワンダの村落部に暮らす少年の朝から夜までを追いました。舗装されない道や、水くみが必要な環境ですが、国の ICT 教育政策から、学校にパソコンは行き渡っています。子どもは水くみを好きだと言い、家族が互いを思い合い、助け合って暮らしています。

この暮らしぶりからは、持続可能性に寄与しているところ、そうでないところ様々に見つかるのではないのでしょうか。

【ダニエリ君一家について】

■家族氏名・年齢 他(※名前の順番は姓名)

- ・父:ハビジャリマーナ・ジャン・クロード 41 歳
村のリーダー、警備員、農作業などに従事
- ・母:ムカビザンワ・クローデン 42 歳
家事・農作業手伝い
- ・長女:ムセンギマーナ・アリーン 20 歳
※キガリ在住
- ・長男:ウィゼマーナ・サビオ 14 歳、小学生
- ・次男:イシムエ・ダニエル 11 歳、小学生
- ・三男:ウィティジェルブ・ゴンザージュ 6 歳



■住居

この周辺地域の中では、一般的な暮らしぶり。ここ福な家はテレビや、バイクを持っていたり、外観がレンガ造りだったりするようだ。

右の写真にある住居の奥に、炊事のためのかまどがある小屋、豚を飼っているスペースがある。



■家族の水情報

・水は、子ども達が湧き水をくみにいき入手。雨季は、雨水を貯める。

・1日に使う水の内訳

食・飲み水…15L、洗い物・掃除…5～10L、入浴・洗顔・歯磨き…15L、トイレ…^{ゼロ}0L

洗濯物がある場合は、さらに20～40L使う

※洗い物のすすぎの水等、家畜の飲み水に再利用。

※ダニエリ君家族が捉えている大体の数値で、正確に測っているわけではない。

・飲み水専用のタンク(入れ物)もあり、これには煮沸、網でろ過した水だけ入れて使っている。ただし、この地域の人々が皆飲み水を煮沸しているわけではない。この地域では、水くみや農作業など、力仕事の後にジェリ缶を回し飲みする様子も見られるが、そのような時はたいていくんだままの水を口にしている。

・母親は、飲み水は煮沸した方が良いことは昔から知っているとのこと。加えてUSAID(アメリカ合衆国国際開発庁、<https://www.usaid.gov/>)が飲料水の煮沸について啓発活動を行っており、専用のタンクも配布された(ダニエリ君一家もそれを使っている)。

・飲み水以外は、くんできた水または雨水をそのまま使用。

料理、洗い物、洗顔や歯磨き、洗濯に使っている。

トイレは水洗ではなく、掘った穴の中に汚物がたまったら埋める、という形式。

・乾季は、朝5時に起きて、近所の子どもたちが集まり、懐中電灯を照らしながら一緒に水くみに行く。雨季は、ジェリ缶に雨水を貯められるものの、1日おきくらいには、くみに行かないと足りない。雨で道がぬかるむこともあり、昼間に行く。

水くみ場は湧き水を水源としており、坂を20分ほど下ったところにある。

・ルワンダ水衛生公社(WASAC)の公共水栓もあるが、かなり遠く有料で、20Rwf(ルワンダフラン)/ジェリ缶(20L)するため、殆ど使っていない。

※2020年2月現在1Rwfは0.117日本円。

・家計の水への収支…基本0%。稀に有料の公共水栓に水を買に行くこともある。

■ダニエリ君の1日(※撮影時)

05:30 母親起床、家事を始める(洗い物、朝食準備)。

父親は18時～翌朝6時まで警備員として勤務。

06:00 ダニエリ君起床、歯磨き、顔を洗う。

朝食はイギコマ(トウモロコシなど穀類の粉末を溶いたもの)と夕飯の残り。

07:40 着替えて学校へ向かう(舗装されない道をゆっくり40分ほど歩く)。

08:20 登校 ～コンピュータを使った授業を行う(初歩の段階で名前の入力練習)。

- 11:00 帰宅、一家で昼食。一人一皿ある。
(野菜を煮たものをご飯にかけたもの)
- 11:40 洗い物を手伝い、水くみにでかける。
- 13:00 サッカーをして遊ぶ。
- 16:00 勉強。教科書がないため、授業中に模写したものを読んでいる。
- 20:00 夕食。
- 21:00 就寝。

■写真



ICT に力を入れるルワンダでは、小学校からパソコンの授業がある(全国どこでも)。子どもは男女ともに短髪にしている。



水くみは早ければ3、4才くらいから手伝う。女性と子どもの仕事なのか成人男性は見当たらない。
(都心部の水売りは、ほぼ成人男性)

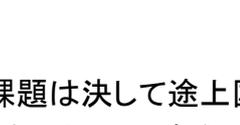
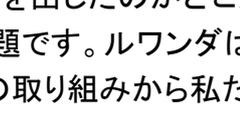


ダニエリ君のお母さんは飲み水用にくんできた水を煮沸し、こし、飲み水専用のタンクで保管している。



雨が降ると、急いでジェリ缶に漏斗を設置。息子の水くみ負荷軽減のため。

5. 海をわたるプラスチックごみ(全 1 分 45 秒)

0:00		・捨てた“つもり”が意図せず海に行きかねないプラスチック(ゴミ)
0:21		・人間が使った後のプラスチックにより、海に生きる生物に被害がでている
0:44		・海を漂流するうちに碎けて小さくなったプラスチックは、まわりまわって私たちが口にする可能性もある
1:06		・世界的に問題視される“海洋プラスチックごみ”削減にむけて、2019 年、G20 大阪サミットでは「2050 年までにゼロ」という目標が掲げられた
1:20		・ルワンダでは 2008 年から既に使い捨てのビニル袋の利用を禁止
1:32		・様々な国で環境のために取り組みが始まっている

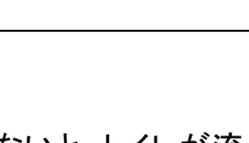
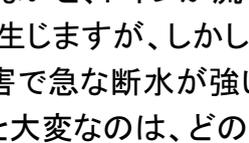
【説明】

水の課題は決して途上国だけの話ではありません。例えば「海洋プラスチックごみ」は、ゴミを出したのがどこかを問わず、海をめぐって世界全体に負の影響を与えかねない問題です。ルワンダは世界の中でも早い段階でプラスチックの規制を始めています。その取り組みから私たちが学べるところがあるかもしれません。

【関連リンク】

- ・1 からわかる！プラスチックごみ問題(1) (NHK NEWS)
https://www3.nhk.or.jp/news/special/news_seminar/jiji/jiji17/
- ・世界で一番「エコ」な大陸か？(アフリカ) (日本貿易振興機構(ジェトロ))
<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/special/2019/0101/820e6f02ed651777.html>
- ・海洋プラスチックごみ問題に挑む！途上国と連携し、多様な取り組みを実施 (JICA)
https://www.jica.go.jp/topics/2019/20200219_01.html
- ・海洋プラスチックごみ(外務省)
※G20 大阪サミット首脳宣言など日本語版・英語版あり
https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ge/page23_002892.html

6. もし水がなかったら……(全 1 分 39 秒)

0:00		2019 年時点で 5 人に 2 人が近くで安全な水を手に入れられていないルワンダは、2024 年までに全ての人々に安全な水が行き届くよう目標を掲げている
0:25		水はなぜ大事なのか 飲み水はもちろんのこと、汚れた水は病気の原因となりうる
0:48		水が近くで手に入ればそれまで水くみにかけていた時間を勉強や仕事につかえる
0:58		安全な水の確保は様々な社会課題に関連し、国を成長させる基盤にもつながる
1:11		日本には水道がいきわたっているが、災害時など使えなくなると、生活に支障が出る
1:26		途上国支援を行う JICA は、各地域に必要な協力を調べ、国際協力に取り組む

【説明】

水がないと、トイレが流せない、料理が作れない、洗い物ができない……と様々な支障が生じますが、しかしこれは決して途上国だけの話ではありません。日本でも昨今、災害で急な断水が強いられることもありました。生きるのに必要な水が手に入りづらいと大変なのは、どの国も同じ。日本の国際協力に取り組む JICA は、それぞれの地域の課題にあわせた協力に取り組んでいます。

【参考情報】

JICAルワンダによる長年の水分野での協力への評価は高く、ルワンダ政府の水セクター会合における共同議長を任されている。

【関連リンク】

- ・「すべての人に安全な水を供給するために」(YouTube JICAchannel1)
<https://www.youtube.com/watch?v=UIWglhSRmF4>
- ・JICA の水分野での協力 (2019 年 10 月セミナー資料)
<https://www.jica.go.jp/hiroba/news/notice/2019/jhqv8b000006e6fp-att/jhqv8b000006e6fic.pdf>
- ・水道分野における国際貢献(厚生労働省)
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/topics/bukyoku/kenkou/suido/jouhou/other/o4.html>
- ・JICA の ODA 事業の評価
※DAC 評価 5 項目(妥当性、有効性、インパクト、効率性、持続性)に基づき評価
<https://www.jica.go.jp/activities/evaluation/about.html>
- ・「生きる力」を育む国際理解教育実践資料集
<https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/materials/index.html>

7. 国際協力活動に取り組む人のインタビュー① 黛専門家の場合／ルワンダ水衛生公社(WASAC)バヒゲさんの場合(全4分59秒)

0:00		配水管の漏水などによる“無収水”という課題の解決のためのプロジェクトに取り組む、黛専門家と水衛生公社(WASAC)バヒゲさんのインタビュー
0:23		元々、県庁職員だった黛専門家は JICA へ 2 年出向したことがきっかけで、国際協力に取り組むようになる
0:57		・なぜ国際協力を仕事に？
1:20		・国際協力ってどう進めるの？
1:56		・プロジェクトが終わるまでにやりとげたいことは？
2:26		・国際協力はなぜ必要？
2:42		水衛生公社(WASAC)のバヒゲさんはこのプロジェクトのルワンダ側の担当
2:56		・日本とプロジェクトを進める中で得られたことは？
4:02		・国際協力のプロジェクトの意義は？
4:44		・日本に期待することは？

【説明】

JICA が取り組む国際協力は、途上国の課題を日本が解決するのではなく、途上国と日本とで共に進めていく協力です。ルワンダの首都キガリで、4 年間の国際協力プロジェクトに取り組む、日本人専門家・黛さん、ルワンダ水衛生公社のバヒゲさんの声をお届けします。

【バヒゲさんのコメントについて、黛専門家に聞きました】

Q:バヒゲさんのいう「持続可能性が大事」とは？

A:プロジェクトは4年ですが、キガリに暮らす人々は一生水を使い続けます。プロジェクト実施中に「できる人たち」だけで取り仕切って成果をあげても、プロジェクト終了後に、成果が持続しなければ、将来にわたって水を使い続ける人々に貢献することは出来ません。成果の持続可能性を確保するためには、ルワンダの人たち自身で考え、課題を解決できるようになることが大事であり、それを目指してプロジェクトを行っています。

Q:バヒゲさんのいう「無収水の問題がマネジメントに関係する」とは？

A:無収水について、一般的に、現場の技術者や職人の仕事の質の問題であり、技術者や職人の責任だと考える傾向があります。もちろん、それも一つの理由ですが、技術者や職人が質の悪い仕事でよとしてしまうのはなぜか、質を高めようと努力しないのはなぜか、と考えると、実は、一番の問題は、職員一人一人の士気・モチベーションにあり、言い換えれば、組織全体のマネジメントにあることが分かります。プロジェクトの現場から、常にそう言い続けてきましたが、それがだんだん伝わってきたと感じています。とはいえ、これを改善するのは、簡単なことではないですが。。

■写真



Water and Sanitation Corporation (WASAC)
ルワンダ水衛生公社



黛専門家とWASAC・バヒゲさん



パイロットエリア(試行・実験をする小さな地域)で配水管の水の流量をはかりにくいところを同行撮影。人が常に水道を使っているわけではないので、ある程度の時間の流量を測ると、漏水の可能性が推測できる。

【関連リンク】

- ・キガリ市無収水対策強化プロジェクト

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1502365/index.html>

- ・JICA の国際協力専門家とは

<https://www.jica.go.jp/recruit/project/index.html>

8. 国際協力活動に取り組む人のインタビュー② JICA 海外協力隊 富田さんの場合(全 3 分 50 秒)

0:00		JICA 海外協力隊はこれまで 5 万人以上も途上国で活動してきた
0:15		ルワンダのルラミラという集落で 2 年間水の課題解決に取り組む JICA 海外協力隊・富田さんのインタビュー
0:33	 	・ルラミラの第一印象は？
0:50		・最初に取り組んだことは？
1:18		(水を入れる容器が汚れたことに気づいた富田さん)
1:30		・どんな洗い方をしているの？
1:57	  	・現地で心がけていることは？
2:29		・活動していて嬉しかったことは？
2:58		・日本の生活をどう思う？
3:18		・国際協力に取り組むうえで大切なことは？

【説明】

青年海外協力隊は、現地の人々と同じ言葉をはなし、同じところに住み、同じものを食べ、生活を共にし、自分の持っている技術や経験を活かしながら、途上国の国づくり、人づくりに貢献し、様々な活動に取り組んでいます。埼玉県出身で、現在ルワンダの村落部、ルラミラで活動する富田さんに話を伺いました。

【映像では紹介しきれなかったお話し】

・富田隊員のとある一日

5:30 起床→朝食、身支度

8:00 歩いてオフィスへ(8:30 頃着)

オフィスの職員に挨拶をしてからフィールドワーク

水質検査及び稼働しているか確認のために井戸へ

井戸に向かう道中で、ルラミラ内の村役場に行き

職員や住民に挨拶したり、村の住民集会への参加や

同行について相談

13:00 近くのローカルレストランで軽食、蒸かした

グリーンバナナ・山羊の串焼き(メニューはこれのみ)

14:00 オフィスに戻り作業(カウンターパート(ルラミラの水インフラ担当の同僚)

に水質検査の結果や村役場の職員と話したことなどを報告)

16:00~17:00 頃 帰宅し、入浴、夕食、22:00 頃 就寝



フィールドワークでハンドポンプ給水を確認する富田隊員

・富田隊員のとある1週間

月：職場で仕事、夕方：村の集会に参加

火：出社後、フィールドワークへ（水質調査のため地域に点在する湧水を確認）

水：月に1回、村で行われる共同調理に参加

集まった母子にジェリ缶洗淨のやり方を紹介

木：出社後、フィールドワーク（ヘルスセンターを訪問）

金：午前は出社、午後は街中心部のマーケットで買い物

※近所で買える野菜がバナナとトマトくらいなので、

週一回程中心部へ食料・日用品を買いに行く

土日：晴れた日に洗濯（乾燥機や脱水機がないので外に干す）

洗濯で使った水を溜めて置き、その水を使って部屋掃除

月に数回、同じカヨンザ郡にいる水分野で活動する協力隊員の

活動先を訪問したり、来てもらって壊れた井戸の修理を試みて

みたり、1人で解決できそうにないことは隊員同士で協力すること）



富田隊員の家にて

飲み水用のボトル水

・水はどう手に入れ、どう使っているのか

週に大体 200Lの水でやりくりしている。120～140L は市販のボトル入りの水を、水運び屋さんから購入しており、これは炊事（食器や野菜、米を洗うなど）、洗濯、入浴に私用。60～70L は家に設置してある雨水タンクの水で、家の掃除や水洗トイレを流すのに使っている。

・ルワンダの人のいいところ

とても優しいです。雨が降り、未舗装の道が泥道になった時、自転車に泥がまとわりつき、チェーンも外れてしまいました。重くてそれ以上押せず途方に暮れてたら、たまたま近くにいた見知らぬ男の人が木の棒を持って駆け寄って来てくれて、一緒に泥を落とすのを手伝ってくれました。さらに近くで見てた子供達も一緒に自転車を押すのに力を貸してくれました。バスの中で体調を崩した時に、これまた見知らぬ人に、降りるのを手伝ってもらい、知人が来るまでずっと寄り添ってもらったこともあります。

そういった、見て見ぬ振りをしない、困っている人がいたら助ける姿勢は、見習おう、心がけよう、と思います。

【関連リンク】

・JICA 海外協力隊の世界日記（ルワンダ・富田隊員の記事）

<https://world-diary.jica.go.jp/tomitamika/>

・JICA 海外協力隊

<https://www.jica.go.jp/volunteer/>

・水の防衛隊（水分野の課題解決に取り組む JICA 海外協力隊）

https://www.jica.go.jp/topics/2018/20181015_01.html

・栄養改善パートナー通信（水と衛生について）

https://www.jica.go.jp/activities/issues/nutrition/partner/ku57pq000023qwt-att/nutrition_improvement_201904.pdf